大佐渡山地縦走

【日程】2024 年４月２７日～２８日
【エリア】大佐渡山地（金剛山、金北山）
【形態】無積雪縦走（一部積雪あり）
【メンバー】M、O、会員外１名
【報告】O

≪ルート／タイム≫

４月２６日　奈良から新潟へ車にて移動

４月２７日

新潟港～フェリー～両津港～タクシー～白瀬登山口手前

09:15 出発地～09:35 白瀬登山口～12:48 金剛山 13:25～16:22 芝尻山～17:18 尻立山～

17:40 ドンデン高原ロッジ

４月２８日

07:15 ドンデン高原ロッジ～アオネバ十字路～08:27 マトネ～09:55 真砂峰～天狗の休場～

11:43 あやめ池～12:12 金北山 12:58～14:11 白雲台～タクシー～両津港へ移動（車回収）

≪報告≫

４月２７日

佐渡は花の百名山にもその名を連ねており、春の花が芽吹く大型連休前後に訪問をしたいと考えていたところM川さんからお誘いをいただき、今回実現することとなった。

佐渡島は国内の離島のなかでも淡路島以上の面積をもつ全国最大の離島でもある。けれども、フェリー等アクセスの便数の事情等もあるのだろう、気軽に何度も訪れることのできる場所ではないな、との印象を受けた。

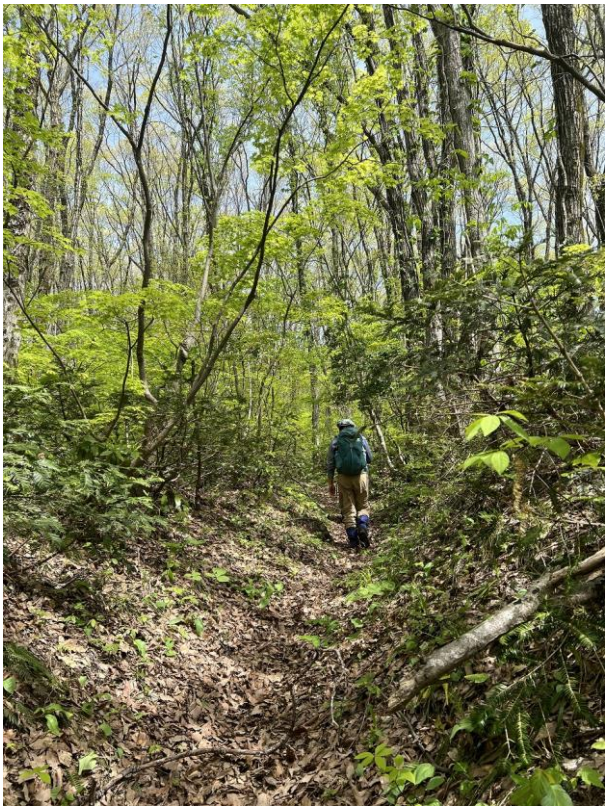
深夜遅くに奈良から新潟市内へ着いたのが２時前。２時間ほど仮眠をとり、４時過ぎには新潟港へフェリー手配の為到着。車をフェリーに入庫し、６時過ぎの便で約２時間の船旅となった。早朝の便にも関わらず連休前半の土曜日とあって船内は大にぎわいだ。私は仮眠に時間を割かせてもらった。

両津港が近づくにつれ、金北山 縦走路が大きく手を広げていた

ルートについては当初、和木までタクシーで入山することで少しでも標高差を稼ぐことを想定していたが、残雪等の都合で実現できず、白瀬から金剛山を経由しての縦走ルートとした。

両津港からはそばのコインパーキングに駐車し、予約をしておいたタクシーにて白瀬登山口方面へ。タクシー運転手いわく、登山口まで送迎をしたいが、道路が狭あいとなるため周辺の農業従事者から立ち入りを希望しない声もあり、民家の最終地点までの送迎とさせて欲しいとのこと。佐渡トレッキング協会は登山口まで入れるとの回答をしているようだが、それぞれを生業とする方々の意見の擦り合わせが不足している部分もあるのであろう。結果、登山口まで２０分ほどゆっくりと畑作地帯を白瀬川の上流に向かって歩きながら登山口へ向かうこととなった。

白瀬登山口へ進む



新緑に覆われた登山道

冒頭に書いたように、大佐渡山地は１０００m前後の縦走路でありながら、登山道のあちらこちらで鮮やかな数々の花を楽しむことができる。

白瀬登山口からは徐々に標高を稼ぎながら、金剛山（９６２m）へ。今回最も目立っていたカタクリは行動開始から序盤はすでに咲き終えた花弁が多かったが、金剛山に近づくにつれて、まだ咲き終えていない群落に出会うことが出来た。気温が高く、金剛山の頂上直下ではバテ気味に。ここまで積雪は一切なし。

３時間ほどかけて白瀬御岳堂という御堂のある頂上を踏んだ後、長めの昼休憩。やや曇が広がっていたが、朝降り立った両津港、また昼からの縦走路をはっきりと臨むことが出来た。

金剛山頂上の御堂

残雪の踏み抜きとルーファイで時間を取られた

ここから一定の標高を下り、佐渡の縦走路へ合流する。残雪が一気に増えはじめた。事前情報もあり、軽アイゼンを持参しておいたものの、雪は気温上昇でそれほど固くはなく、アイゼンの効きは良くない。ツボ足で雪に足を取られながら、自然とスピードも落ちてゆく。またピンクテープがところどころ目印となっているものの、倒木などで登山道が不明瞭となっている箇所が多数あり、ルートファインディングができなければ残雪で見失ってしまう箇所も複数あった。

一方で雪畑山（時間の都合で登らず）の分岐を過ぎたあたりから、完全に雪が溶けた登山道では満開を迎えたカタクリが複数の群落で出迎えてくれた。道中での疲れを癒してくれる時間帯でもある。

この日であった登山客はお一人だけ。ドンデン山荘方面から向かってこられたが、この方の踏み跡を活用させていただき、先を急ぐ。午後からは心地よい風も吹き、眺望の良い鞍部では佐渡北部の海辺の集落を望むことが出来る。約３時間かけて芝尻山への到着が１６時３０分ころ。

カタクリロードに心を癒される

論天山を越えると、これまでのアップダウンは緩やかとなり、本日最後の登り尻立山（ドンデン山）を残すのみ。途中に立派なドンデン避難小屋を右手に見ながら頂上を目指す。午後から長いように思えた縦走路だったが１７時４０分ころにはロッジへ到着することが出来た。予約をいただいた個室にて風呂もあり、バイキングの夕食もありと、贅沢な山中での一泊となった。

この日、金剛山方面からドンデン高原へ向かったのは私たち一組だけのようだ。高原ロッジとしても佐渡山地北部についてはルート整備や残雪の事情もあり、あまりお勧めはしていないとのこと。翌日は天気も回復が期待出来、宿からは両津港の煌めくネオンと星空の両方を楽しむことが出来た。

ドンデン山（尻立山）方面から本日のルートを振り返る。金剛山は右奥の頂上が岩で飛び出している

尻立山から金北山を臨む

ドンデン山荘

４月２８日

朝６時の朝食を済ませ、７時過ぎには行動開始。ドンデン山荘を起点に金北山、白雲台へ抜ける縦走コースをとる登山客。あるいは金北山までピストンをされる登山客が多いようだ。

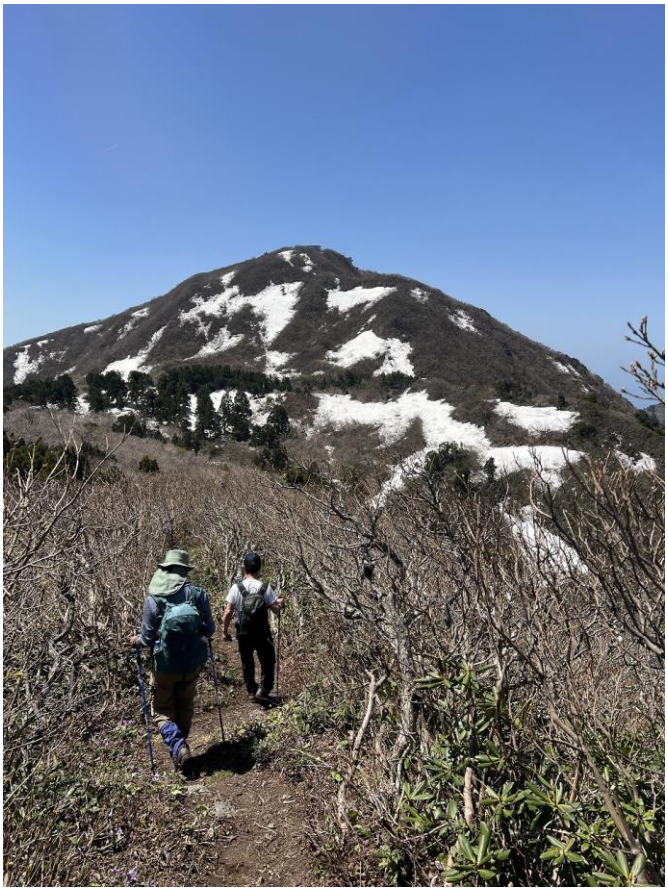
ドンデン山荘から出発し、快晴の縦走路を望む

金北山縦走路の木製の標識に辺りまでは車道を進む。ここからマトネまでは緩やかな傾斜を稼ぎながら標高を上げていく。昨日に続いてカタクリの群落、ユキワリソウ、シラネアオイ等が見ごろを迎えている。M川さんがザゼンソウは未だ見たことが無いというので、注意深く進む。なんと、マトネまでの縦走路で、まだ咲ききっていないザゼンソウを発見することができた。お花についての主だった見どころは縦走路ではマトネまでであろう。

縦走路の看板

マトネまで詰めると、一気に視界が広がり、本日の金北山までの縦走路が見渡せるようになる。金北山手前は残雪が残っているようだ。砂地の地形を越えたりしながら真砂の峰を目指し、徐々に本日の最高峰に向かって歩を進めていく。昨日と変わって遮蔽物が少ない。樹林帯の高さがそれほど無いため、日焼け対策は必須だ。

時々振り返ると、昨日上がってきた金剛山も彼方に見える。彼方に歩いてきた風景を振り返ることができるのは縦走の醍醐味ともいえるだろう。また両サイドには日本海が地平線の奥まで裾野を広げている。



金北山の山頂が間近まで迫って来た

天狗の休場を越え、台地に乗り越すと今日の縦走路でもっとも残雪が残っている雪田帯へ入る。鏡池、あやめ池と山頂直下に２つの池が残雪の奥に見えてくる。蛙の鳴き声だろうか、この山域では春はいまやって来たばかりなのだ。あやめ池という私にとってはご縁の深い地名の池を左に見やりながら、金北山からみて北東斜面の急こう配に取りつく。ここが今回の山行での危険個所でもある。

残雪にそってステップを踏めるように雪の階段があり、またトラロープを頂上から垂らしていただいているものの、気温で雪が腐ってしまい、注意深く歩かないと潜ってしまう。慎重に一人ずつ通過して乗り越える。

あやめ池を抜け、ロープを頼りに急こう配を越える。振り返ると、両津港をはじめ大展望が待っていた。

頂上へは、ほどなくしてたどり着くことが出来る。頂上には構造物が多数立ち並んでいる。立派な御堂とどこかの宗派だろうか、多数の石碑を従えた仏様が鎮座している。また旧防衛庁の施設のような朽ちかけた建物も多数ある。往路のフェリーからみえた山頂の構造物はこれだったのだ！不思議なことは三角点がなかなか見つからないことだ。後で調べてみると、石仏のあるエリアにひっそりと石に囲まれるように三角点が隠れているとのこと。残念ながら本州の新潟市や周辺の白馬等の山域について確認することができなかった。

金北山の頂上から。

白雲台そばにある防衛省管理道路の管理柵

大休止をとり、展望を楽しんだ後は、白雲谷向かって防衛省管理道路を歩くのみ。砂利道のため、歩きやすいとは言い難いが、１時間と１５分程度で白雲台へ到着する。その道中に２つのピークを巻くことになるが、ここに防衛省が管理しているのであろうレーダーサイト（通称ガメラと呼ばれている）も稼働している。

私は最後のピークの妙見山を巻いてそのまま車道で白雲台へ。M川さんとそのご友人Ｎさんは妙見山を目指されたが、最後の下山ルートで積雪に阻まれ、車道から降りてこられた。いわゆる登山口のビジターセンターとしての存在だ。自動販売機で喉を潤し、予約をしたタクシーで両津港へ。

翌日は世界遺産候補として手を挙げておられる佐渡金山を訪れるべく、近隣の相川地区へ宿泊することとなった。１０００ｍを少し超える程度の山地であるにも関わらず、名山と言われる所以は日本海をすぐそばに従えている事、花の名山であること、など地域住民に愛されている理由が挙げられるのだろう。翌日、佐渡を離れる前に両津港そばの加茂湖から湖面に浮かぶ大佐渡山地が大変美しく、記憶に残る風景となった。

加茂湖から縦走した山々を望む。金北山は右手の最高峰

佐渡で出会った花たち１

上段）オドリコソウ・ヒトリシズカ・ニリンソウ

中段）キクザキイチゲ・シラネアオイ

下段）カタクリの群落

佐渡で出会った花たち２
上段）ザゼンソウ・サンカヨウ
中段）カタクリ・ミヤマスミレ
下段）ユキワリソウ（左右共に色違い）